

人間の根っこは腸である

もしも 木の葉や花が枯れると、木のどこを診るだろうか……。庭師ならば根を診て「根腐れ」を起こしていないかを調べるはず。人間も同じなのです。

西洋医学は対症療法であり、東洋医学は対証療法といわれます。要するに、西洋医学では症状と病巣が一緒で、例えば咳が止まらなければ気管支や肺の病気、皮膚が痒ければ皮膚の病気、胃が痛ければ胃の病気……。症状が出た部位の病気と考えて、そこを治療するのが対症療法です。

一方、いまから約二千六百年前の中国で、どうやら症状と病巣が違う病があるらしいといわれ、その本当の病巣を追い求め、治療にあたるのが東洋医学です。対証療法の「証」は体質のことであり、患者さんの体質全体を見て病巣を探すのです。

私は 1 本の木を見ながら思いました。西洋医学というものは、花に異常が見られたら、その花を「CT スキャン」や「MRI」を使って徹底的に調べ、花に効く薬はないかとホームセンターに行き、リン酸や窒素を買ってきて与えるようなもの。どこまでいっても花、花、花なのです。

しかし、東洋医学は花が枯れたら土を調べ、根を調べる。要するに東洋医学は「根に向かう医学」なのだと思います。

では、一体人間にとっての根はどこなのでしょう。

植物の根は、土から水分や養分を吸収する働きをしています。人間では水分や栄養分を吸収しているのは「腸」です。

どんな病気であってもまずお腹を診なさいということです。

人間を司っているのは脳ではなく腸である

高齢化社会を迎えた日本では、いま認知症が盛んに話題になっています。認知症には単純性認知症とアルツハイマー性認知症の二つがありますが、脳の劣化が単純性認知症です。例えば物や人の名前を忘れてしまう、思い出すまでに時間がかかる。これは単なる物忘れがあつて、ある程度の年齢に達すれば誰でも経験することであり、最近では、若い人にも多いといえます。

しかし、さっき食事をしたのに忘れてしまう、人が自分のものを取ったと錯覚する、何でも口の中に入れてしまう…。そのように人格に影響を及ぼす腸の認知症をアルツハイマーというのです。

現代医学ではこの両者をもとに脳の問題と捉えています。私は後者は腸の問題だと考えています。事実、そういう人たちを腹診してみると、明らかにその動きは衰えているのです。昨今、うつ病などは心の病といわれていますが、それも脳ではなく腸を治すことが必要なのです。

————— 「考根論」 西諫早病院 東洋医学研究センター長 田中保郎先生 —————

もはや食の無知を無視できない！

食＝命を委ねる
自分の力で安全を生み出す
次世代に残すものは？

